

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100143		
法人名	企業組合 飯野の里		
事業所名	グループホーム飯野の里 1階		
所在地	福島県福島市飯野町字原田11番地の1		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	平成21年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成21年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中で、ご利用者様それぞれがのんびり、ゆったりと、そして楽しく生活できるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市町村合併前の旧町の住民が中心となり、地域の高齢化に対応するため企業組合を設立し、組合が運営しているグループホームである。地域性から家族介護が中心となっており、旧町の利用者は3割程度である。しかし、地域住民の事業所に対する協力・支援は積極的である。運営者を兼ねる管理者を中心に職員と一体になって利用者のケアと運営に取り組んでおり、利用者との信頼関係も良好である。利用者も明るく落ち着いてゆったりとした時間を過ごしている。自己評価は初めてであるが職員全員で実践状況を検討し改善に努めている。専任の事務職員が配置されており、通常の事務処理や通院介助時の運転にも従事していることから、介護職員はケアに専念できる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき実践につなげています。	理念は「地域に密着した利用者・職員が共に自分らしく笑顔になれる生活環境を目指す」ことをモットーとして掲げており、職員の明るくさりげない態度が利用者の落ち着きにつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行政機関、任意団体等の行事等に積極的に参加し、日常的に交流しています。	旧町に開設された初の事業所でもあることから、地域住民の期待も大きく協力・支援が得られている。地域との交流も頻繁に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームの概要、実践内容等をチラシを配布したり、口頭で説明する等しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、委員の皆様から率直なご意見をいただき、業務の改善等に活かしています。	会議は定期的に行われている。旧町内の多岐に渡る職種から外部委員を委嘱し、毎回10名を超える出席者があるが、会議の運営や進行は事業所が主導している。	事業所の報告などの議題が多いため、今後は双方向による審議をすることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の各ご担当部署と、連絡を密にし、協力関係の構築に努力しています。	地元としては初めてのグループホーム開設に大きな期待を抱き、開設者と共に地域住民への働きかけを積極的に行ってきた。福島市との合併後も事業所は情報を積極的に提供しており、支所の担当者は運営推進会議に常に出席して双方向からの情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者をはじめ、職員一同、身体拘束のない介護に努めています。	玄関に身体拘束をしない旨のポスターが貼ってあり、職員の注意が常に喚起されるようになっている。昼間は施錠せず利用者の行動をさりげなく見守っている。外出願望や帰宅願望が見られるときにはさえぎらずに見守りながらついて行くことにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員が研修会に出席する等して虐待防止についての理解を深め、その防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、成年後見制度についての研修会に出席実績はありますが、事業所としての取り組みは未だしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には十分な説明をし、ご納得をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不定期ではありますが、ご家族と電話にて会話する機会を持ち、また、ホーム玄関にご意見箱を設置する等して、ご家族のご意見をいただけるようにしています。また、それらを業務に反映させる努力をしています。	運営推進会議における家族の意見や要望は建設的である。家族の訪問時や電話での問い合わせには利用者の近況について丁寧に説明し、意見や要望は真摯に受け止め、速やかに対処している。意見箱を設置しているが、投函の実績はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例の全体ミーティングや、ヘルパーミーティングで職員の意見・提案を聞き、運営に反映させています。	管理者は日頃から職員に積極的に声を出すようにと呼びかけており、意見や提案が通り易い雰囲気を作るよう心がけている。また、職員のスキルアップを図るために外部研修へも参加させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるよう職場環境・条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を可能な限り外部研修に出席させ、スキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修会等に積極的に参加し、他のグループホームとの連携、情報交換に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の段階でご本人の意向を極力お聞きし、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の段階でご家族の意向・現状を極力お聞きし、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、ご本人・ご家族にとって必要であることを優先に、ご家族との協力の元、対応させていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様で暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・ご家族が協力し合い、ご利用者様の介護に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームからの積極的なアプローチはできていません。ご面会等については、極力ご意向に沿うよう努めています。	地元出身の利用者には馴染みの店に行く人もいるが、福島市内から入居した利用者については、距離や交通機関の都合もあって対応できていない。	町内の商店会などが協力的で受け入れ態勢もできているようなので、馴染みの関係を新しく作っていくことを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様が孤立することがないように、ご利用者様同士の関係を把握し、見守らせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要があれば、ご家族と連絡をとらせていただき、良好な関係を保たせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様のご意向を把握し、それに沿うよう極力努めています。	自分の希望や意向を表現しにくい利用者に対しては日頃の行動パターンをきめ細かく観察し、感情の起伏や表情などを読み取ってケアに反映させるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査や、日頃の、ご家族との会話から、ご利用者様のこれまでのお暮らしの内容を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ご利用者様の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い、現状に即した介護計画づくりに努力しています。	利用者の状態や家族の要望を取り入れ利用者のニーズを把握し現状に即した介護計画を作成している。また、計画終了時に介護サービス内容をモニタリングし、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録、職員間の情報交換を密にし、介護計画の見直しに活かせるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に即した介護が実践できるよう、柔軟に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームがある地域資源が、ご利用者様一人一人に活かせるよう、情報収集等に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホーム協力医療機関にて、すべてのご利用者様の定期受診に努め、ご家族のご了解・ご納得をいただいています。	認知症については定期的に福島市の協力医療機関で受診するが、軽い風邪や歯科等については近隣の個人医院で受診することにしており、いずれも職員が付添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護職はおりません。上記契約医療機関との24時間体制の連携により、適切な指示等をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、協力医療機関との緊密な連携を保ち、ご利用者様の早期退院に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される場合、早期にご家族との話し合いを持ち、協力医療機関との連携のもと、対応しています。	開設から1年経過しているが、重度化や見取りの指針などを定めていない。	医療連携加算対象事業所でないが、事業所が対応できる範囲での重度化に伴う対応指針や意志確認書を作成し、入所時に利用者、家族等に説明を行うことが大切である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変、事故発生時については、現在、全ての職員が的確かつ迅速に対応できる状況ではありません。また、実際に即した訓練等も今後の課題となっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等も未実施であるため、今後全職員での訓練が課題です。	第1回の運営推進会議の議題には提示されているが、実際には災害・救急の訓練は行われていない。	火災・地震など不慮の災害時には職員の初期行動が極めて重大な要素である。幸い消防署や地域住民の協力も得やすい環境にあることでもあり、季節的に火気の使用が多くなることから速やかに訓練の実施を計画し、実施して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様それぞれの人格、プライバシーを尊重しつつ介護に努めています。	人生経験の豊富な先輩である利用者に対しては常に尊敬の念を持って接しており、プライバシーポリシーも明文化している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様のご意向、自己決定のための働きかけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれの生活のペースを尊重し、ご希望に沿うよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについても、ご利用者様のご意向を尊重し、支援させていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	作業可能なご利用者様と職員が共に作業し、食事が楽しめる環境づくりに努めています。	季節感があり彩りもきれいな食事が利用者それぞれの好みの食器に盛り付けられており、利用者同士の食べながらの会話も落ち着いている。下ごしらえや洗い物など利用者ができる範囲で厨房を手伝って関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様一人一人の状況に合わせて、食事量、食事提供方法、水分量等の適正化に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様それぞれの状況に合った口腔ケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様それぞれの状況を把握し、排泄の自立に向け努めています。	共用のトイレが2箇所あり、利用者の排泄のリズムに気配りしながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様それぞれの便秘の原因を理解し、その防止に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様のご意向に沿うよう、ご入浴をいただいています。	週に2回は入浴できるようにしている。入居から間もない利用者には当初、日中に入浴することに抵抗する場合があったり、入浴を嫌がる利用者もいるが、ゆっくり時間をかけて話し合い無理強いないようにして、利用者が自ら納得して入浴を楽しむように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休憩、夜間の睡眠ともに、ご利用者様それぞれが良眠できるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で、ご利用者様それぞれの服用薬についての正しい知識をもつようし、服薬の支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者それぞれの嗜好品についてはほぼ把握できていますが、楽しみごとが、まだ把握できていない状況です。ご利用者様の生活能力の回復向上のために努力します。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、ご入居者様それぞれの希望に沿って、戸外に出かけられるようにしています。また、ご本人のご意向をおききしながら、名所旧跡等へもおつれするようにしています。	事業所の周りは自然に恵まれており、日常の散歩を楽しんでいる。季節的には桜、新緑、紅葉などの行楽も行っており、利用者の生活にメリハリをつける努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員とご家族との協議のもと、ご利用者様にお金を持っていただいています。また、買い物等の報告をその都度させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の支援はさせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、安全面・衛生面に配慮し、また、飾りつけ等を施し、居心地良く過ごしいただけるよう努めています。	開設してからまだ一年の新しい建物であり明るく清潔に保たれている。外部の騒音も入らない。利用者の誕生会や行楽の写真、紙製の飾りや縫いぐるみなどの趣味の作品が飾られており家庭的で暖かい雰囲気の空間になっている。利用者は掘りごたつやソファでくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内にご利用者様それぞれがしやすい場所づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	居室ではご利用者様のプライバシーが保てるよう努めています。また、安全面・衛生面でも安心して暮らしいただけるよう配慮しています。また、ご自宅での家具の配置等をお聞きし、極力それに合わせています。	馴染みの家具の持ち込みも自由に認められている。大きいクローゼットが各部屋にあるのでかなりの私物が収納できる。ベッドか布団かは利用者が選べるので、自宅の延長上で生活ができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はご利用者様の「わかること」「できること」が明確になるよう努めています。		